

平成 29 年度 安全の日 実施要項

田老保育所

◆目的 津波や様々な災害から走って逃れ、自分の命を守る力を養う

- ◎子どもは津波から逃げ切る事ができるような瞬発力や持久力などの運動能力を養う
- ◎職員は避難場所や避難経路を瞬時に判断する力を身につける
- ◎職員は災害状況に応じて、安全に誘導できるよう誘導車の扱いに慣れ、避難リュック等持ち物の確認をする

◆訓練方法

- 『安全の日』の意味を知らせ、理解させながら訓練を行う
- 毎回、園庭から避難場所までのタイム測定を行う
- 事前に避難路を避難する際の配慮事項や職員配置、未満児の避難方法について職員間で確認し共通理解しながら訓練を行う
- 担当者は道路状況に応じて避難路を変更し、安全な場所に誘導する
- 実施後反省を行い、次月のねらいや配慮事項・職員配置について確認し、判断力を養う

◆児童数 70 名

◆職員 15 名

平成 29 年度

避難訓練計画

田老保育所

- 1)目的 この計画は、田老保育所消防計画並びに児童福祉施設最低基準第 6 条に基づき、火災又は地震等の非常災害から児童の生命、身体、安全保護とその他被害の軽減を図るため、児童の避難及び職員の災害対策について必要な訓練を行うことを目的とする。
 ◎施設で働く職員や責任者、管理者が瞬時の判断に過ち無きよう様々な体験を通して必要な力を身につけていく。(災害時における避難方法を熟知し、子供の安全に関する職員の高揚を図る。)
 ◎災害から身を守るための様々な方法を自らが獲得していく。(年齢、発達に応じた子どもの機敏な行動の習慣化を目指す)
- 2)訓練 前項の目的を達成するため、下表により毎月一回訓練を行うものとする。
- 3)記録 訓練を実施した場合、訓練の結果を避難訓練簿に記録するものとする。

月	想 定	ね ら い	訓 練 方 法	指 導 上 の 留 意 点	避難場所	担当
4月	避難訓練の話 ＜全体集会＞	○避難訓練の意味と大切さや災害時における合図や避難する際の約束を知る。	・命や避難訓練の大切さ、お・か・し・もの約束を知らせる。 ・誘導旗や非常ベル、災害時の避難の仕方を知らせる	・分かりやすく説明し不安を与えないようにする。 ・話を集中して聞けるよう環境を工夫する。	ホール	
5月	地震(津波なし) ＜組別保育中＞	○地震の際の身の守り方や避難の仕方や約束事を知る。	・戸の揺れと口頭で地震発生を知らせ、安全な場所で身を守らせる。次の指示を静かに待つ。 ・年齢に応じた事後指導をする。	・火災との違いを知らせる。 ・身の守り方について具体的に知らせる。 ・落下物に注意させる。	保育室	
6月	火災(給食室出火) ＜組別保育中＞	○火災の避難方法及び場所を覚える。 ○合図を聞いたら、あわてず保育者の指示に従う。	・放送や非常ベルの音で誘導旗の所に集まり、指示に従って避難する。 ・人数の報告、未避難者の有無の確認をする。	・出火場所、避難場所や方法を明確に知らせる。 ・初めての訓練の子や不安を示す子もいるので丁寧に行う。	第 1 避難場所	
7月	地震後火災・通報 (二次災害。給食室出火) ＜戸外遊び中＞	○戸外での地震時の身の守り方を知る。 ○地震により火災が起こることを知る。 ○災害専用電話を利用して 119 番通報する。	・笛の合図や放送で地震発生を知らせる。 ・遊びを中断し、側にいる保育者の指示に従い安全な場所で身を守らせる。 ・地震後の二次災害について知らせ速やかに避難させる。	・担任保育者や室内に向かう子が予想されるので、声掛けをして周囲にいる子どもを速やかに集める。又室内にいる子がいないか確認する。 ・外のガスのボンベの栓を閉める。	第 1→第 2 避難場所	
8月	自然災害 台風 ＜おやつ中＞	○いろいろな災害のある事を知り、避難の仕方の違いを知る ○非常時の対応を考え環境を整える。	・停電を想定し、ハンドマイクで避難を呼びかける。 ・一ヶ所に集合させ気持ちを落ち着かせるようにする。 ・災害用備蓄のおやつを試食する。	・慌てずに指示をよく聞けるようにする。 ・災害に応じた園内の安全な場所を的確に判断し職員の役割分担を確認する。	ホール	
9月	不審者対策 ＜戸外自由遊び＞	○不審者が園内に侵入したときの避難の仕方を知る。 ○慌てず子どもの安全を確保する。	・保育者が不審者の侵入に気づき特定の合図で知らせる。 ・速やかに子ども達を集め、園舎内に避難させる。 ・いかのおすしの約束を知らせる。	・戸外遊び時の人数を把握しておく。 ・火災とは違う職員体制、役割分担について確認しておく。	保育室	
10月	火災・総合訓練 (乾燥機より出火) ＜集会中＞	○総合的に訓練することにより通報→消火までの行動が円滑にできるようにする。 ○訓練の大切さや火の恐ろしさについて、体験を通して知る。	・担当者が放送で火災発生を知らせ消防署へ通報する。 ・異年齢児が避難するので押し合わないよう注意する。 ・消防署の協力のもと、通報・避難誘導・非常持ち出し・消火・煙・消防車の機能を知る等の総合訓練をする。	・事前に消防署に協力依頼をし、打ち合わせをする。 ・非常持ち出しの物品及び救急バッグは、常に点検、確認しておく。又、職員の役割分担を確認する。 ・AED の使用方法について確認する。	第 1→診療 所脇→第3 避難場所	
11月	地震→近隣火災 ＜降所準備中＞	○災害発生時における保護者の協力体制を整える。 ○どのような状況でも保育者の指示に従って行動できるようにする。	・戸の揺れで地震を感知させ、放送で地震後火災が発生したことを知らせ、降所準備後、外靴にて避難誘導する。 ・点呼後、保護者を確認し引き渡す。 ・第3避難場所へのリュックの持ち出しも行う。	・事前に保護者に連絡をし、訓練への協力依頼をする。 ・必要最小限の言葉で指示し速やかに準備させる。 ・先導と最後尾の保育者は臨機応変に適切な判断をして安全に避難できるようにする。	第 1→第3 避難場所	
12月	ガス漏れ(給食室) ＜給食準備中＞	○ガス漏れの避難の仕方を知る。 ○ガス爆発の怖さを知る。	・放送でガス漏れを知らせる。 ・使用中のコンロを止め、ガスの元栓を締める。 ・ガス爆発について具体的に知らせる。	・電源、スイッチ等、火花、静電気の起こる物には触れないようにする。 ・袖口やハンカチを口に当て素早く避難させる。	第 1 避難場所	
1月	火災(山火事) ＜自由遊び中＞	○担任以外のどの保育者の指示でも行動できる順応性を養う。 ○凍結した場合の避難の仕方を知る。	・放送で火災発生を知らせ、身支度をさせて避難させる。 ・火災はどんな時間帯でも起こることを知らせる。 ・悪状況の道路を気をつけて歩かせる。	・出席簿等で常に子どもの人数を把握しておき、少ない職員でも素早く避難できるよう職員の連携を図る。 ・路面凍結時の避難となるので安全面に留意する。	第 1→第 2 避難場所	
2月	未 定 ＜ ? ＞	○突然の訓練にも慌てず落ち着いて行動する。 ○各担任は冷静に判断し、誘導にあたる。	・担当者が時間、災害、場所等を想定し、職員への事前連絡もせずに行う。	・突然の訓練で生活状況が中断されるので、事後の配慮をする。 ・冷静に判断、行動できたか、成果を確認する。	?	
3月	地震→津波警報 ＜午睡中＞	○いかなる状況でも落ち着いて、保育者の指示に従って行動する。 ○津波警報時の避難の仕方や約束を知る。	・戸の揺れ及び放送で地震発生、警報発令を知らせる。 ・速やかに着替えや避難準備が出来るよう声を掛ける。 ・地震時や津波の場合の避難の仕方を確認する。	・午睡中でも慌てずその場で身を守らせる。 ・恐怖心や不安感を持つ子もいるので安心感が持てるよう適切な声がけをし、東日本大震災について話す。	第 1 避難場所	

事故及び災害への対応マニュアル

田老保育所

様々な災害から児童の生命・身体を安全に保護し、被害の軽減を図るために災害時の対応について定める

- ①第一発見者はすぐに所長または保育主査に知らせると共に園内に大声又は笛、放送器具で 災害事由（出火場所）を知らせる。
- ②所長又は保育主査は災害場所・種類に応じて避難場所を指示し、消防署・市役所に通報・連絡する。
- ③保育士は落ち着いて子どもの避難誘導にあたる。
- ④最後に部屋を出る職員は消灯と戸締りを忘れずに行う。（災害状況に応じて）※保護者連絡用の避難場所ボードを掲示
- ⑤避難場所に着いたら、副担のいるクラスは状況を見て未満児の誘導にあたる。
- ⑥保育主査は人数確認と負傷者の有無を確認し、所長に報告する。
- ⑦所長又は保育主査は災害の状況の情報収集をし、災害が収まったことを確認してから保育所に戻る。

避難場所

●第一避難場所…園庭

●第二避難場所…三王団地二丁目公園

●第三避難場所…消防田老分署隣空地

通報連絡

所長又は保育主査が行う（又は所長が指示した者）

●消防署（１１９） 又は 警察（１１０） ●子育て支援室（68－９０８４）又は市役所（62－2111）

●保護者には案内ボード又は連絡網等で避難待機場所を知らせて迎えに来てもらう。

誘導

担当保育士が行う ※人数確認（報告）

安全点検

調理士、調理員が行う ※火災の場合は初期消火 ※危険箇所や被害状況の把握（報告）

応急救護

看護師が行う ※記録をとる。必要に応じて医療機関に連絡

救助

主査が行う（最終検索：建物内部に子どもが残っていないか、特にトイレ・押入れを確認する。）

持ち出し物

●緊急連絡簿・携帯電話→所長 ●非常食・飲料水→調理士 ●リュックサック→以上児担任 ●救急バッグ→看護師

※持ち出し用品詳細は別紙の通り。※職員も出来る範囲で貴重品・携帯を持参のこと。

避難時持ち出し用品 チェックシート

リュックサック 1・2

No.	品 名	数量	他	<input type="checkbox"/>
1	緊急送迎簿・文房具		ペン、マジック はさみ、マジック、ホッチキス	
2	薬 品		マキロン、カットバン、熱サマシート、ガーゼ、カット綿、湿布、体温計	
3	フェイスタオル	3		
4	おぶいひも	1		
5	ブルーシート	1	小	
6	おむつ	3		
7	懐中電灯・ラジオ	1	ヘッド式があるとよい	
8	ウェットティッシュ	1		
9	ごみ袋	5		
10	トイレットペーパー	3		
11	ロープ	1		
12	軍手・使い捨て手袋	5	使い捨て手袋は多めに持つ	
13	ライター、ローソク	1		
14	ポリ袋(小)	1 箱		
15	絵本又は紙芝居	1	子どもの好きなもの	

リュックサック 3・4

No.	品 名	数量	他	<input type="checkbox"/>
1	おむつ	6	※未満児人数に応じて	
2	着替え一式	3組	未満児用2、以上児用1	
3	お尻拭きナップ	1		
4	バスタオル	2		
5	おぶいひも又はさらし	1		
6	ゴム手袋・使い捨て手袋	10		
7	電池予備		懐中電灯用	
8	マスク		子供用 50 大人用 20	
9	レジ袋	20		
10	ブルーシート	2	大	
11	毛布	2		
12	アルミシート	4		
13	バケツ			
14	大人用薬品		頭痛薬、胃薬、下痢止め、目薬	
15	ボックスティッシュ	2		